

相談援助の基盤と専門職

問題 91 次の記述のうち、社会福祉士に関する説明として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 虐待に関わる相談は、社会福祉士が独占している業務である。
- 2 社会福祉士は、特定の職種の任用資格になっている。
- 3 社会福祉士の名称は、国家試験の合格をもって使用することができる。
- 4 社会福祉士でない者が社会福祉士の名称を使用した場合に罰則がある。
- 5 介護老人保健施設に社会福祉士を置かなければならない。

問題 92 次のうち、「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」(2014年)に関する記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 本定義は、各国および世界の各地域を問わず、同一であることが奨励されている。
- 2 ソーシャルワーク専門職は、社会変革を任務とするとともに社会的安定の維持にも等しく関与する。
- 3 ソーシャルワークの原則において、マイノリティへの「多様性の尊重」と「危害を加えない」ことは、対立せずに実現可能である。
- 4 ソーシャルワークの研究と理論の独自性は、サービス利用者との対話的過程とは異なるところで作り上げられてきた。
- 5 ソーシャルワークの焦点は多様であるが、実践における優先順位は固定的である。

(注) 「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」とは、2014年7月の国際ソーシャルワーカー連盟(I F S W)と国際ソーシャルワーク学校連盟(I A S S W)の総会・合同会議で採択されたものを指す。

問題 93 19世紀中期から20世紀中期にかけてのソーシャルワークの形成過程に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 エルバーフェルト制度では、全市を細分化し、名誉職である救済委員を配置し、家庭訪問や調査、相談を通して貧民を減少させることを目指した。
- 2 セツルメント運動は、要保護者の個別訪問活動を中心に展開され、貧困からの脱出に向けて、勤勉と節制を重視する道徳主義を理念とした。
- 3 ケースワークの発展の初期段階において、当事者を主体としたストレングスアプローチが提唱された。
- 4 ミルフォード会議では、それまで分散して活動していたソーシャルワーク関係の諸団体が統合された。
- 5 全米ソーシャルワーカー協会の発足時には、ケースワークの基本的な事柄を広範囲に検討した結果として、初めて「ジェネリック」概念が提起された。

問題 94 事例を読んで、Z障害者支援施設のF生活支援員(社会福祉士)がこの時点で
行う支援方針の見直しに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

知的障害のあるGさん(35歳)は、日頃から言語的コミュニケーションは難しいところがあるが、Z障害者支援施設から離れた場所にある生家に一時外泊を行った。Gさんが施設に戻った際に、Gさんの家族から、外泊中の様子を伝えられた。自分から気に入った場所に遊びに出掛けたり、簡単な食事は自分で用意したりしていたとのことであった。F生活支援員にとっては、施設ではこれまで見掛けたことのないGさんの様子であった。

- 1 Gさんの支援は、施設と自宅では環境が異なるため、施設の事情や制約に合わせた支援を行うことを再確認する。
- 2 Gさんの施設での生活では、職員が考えるGさんの最善の利益に関する事柄を優先的に取り入れる。
- 3 Gさんの興味が広がるよう、Gさんの理解力や意思決定の力を考慮して、思いや選好を確認するよう努める。
- 4 家族から聞いた話を基に、Gさんの支援に、自立に向けたプログラムとして施設内で実施している料理教室への参加を組み入れる。
- 5 Gさんの短期的な支援目標を、施設に近接する共同生活援助(グループホーム)への移行に改める。

問題 95 リッチモンド(Richmond, M.)の人物と業績に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ケースワークの専門職としてニューヨーク慈善組織協会に採用された。
- 2 ケースワークの体系化に貢献したことから、後に「ケースワークの母」といわれた。
- 3 社会改良を意味する「卸売的方法」は、個別救済を意味する「小売的方法」の始点であり終点であると位置づけた。
- 4 『社会診断』において、ケースワークが社会的証拠の探索と収集を重視することに対して、異議を唱えた。
- 5 『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』において、ケースワークを人間と社会環境との間を調整し、パーソナリティを発達させる諸過程と定義した。

問題 96 次の記述のうち、福祉に関する事務所(福祉事務所)に配置される所員の社会福祉法に基づく業務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 指導監督を行う所員(査察指導員)は、都道府県知事の指揮監督を受けて、生活保護業務の監査指導を行う。
- 2 現業を行う所員(現業員)は、所長の指揮監督を受けて、援護、育成又は更生の措置を要する者等に対する生活指導などを行う。
- 3 母子・父子自立支援員は、家庭における児童養育の技術及び児童に係る家庭の人間関係に関する事項等に関する相談に応じる。
- 4 知的障害者福祉司は、社会的信望のもとに知的障害者の更生援護に熱意と識見を持って、知的障害者やその保護者の相談に応じ必要な援助を行う。
- 5 家庭相談員は、児童の保護その他児童の福祉に関する事項について、相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う。

問題 97 事例を読んで、ピンカス(Pincus, A.)とミナハン(Minahan, A.)の「4つの基本的なシステム」(チェンジ・エージェント・システム, クライアント・システム, ターゲット・システム, アクション・システム)のうち, チェンジ・エージェント・システムが抱える課題として, **最も適切なものを1つ**選びなさい。

〔事例〕

脊髄小脳変性症で入院したHさん(45歳, 男性)が退院準備のために医療ソーシャルワーカーに相談に来た。現在, 下肢の筋力低下が進んでおり, 長い時間の歩行は困難で車いすを利用している。Hさんは一戸建ての自宅で妻(42歳, 会社員)と二人暮らしであり, 今後は, 介護保険サービスを利用して自宅に退院することを検討している。また, Hさんは入院後休職中であるが, 自宅で療養した後に復職を希望している。

- 1 Hさんの退院後の自宅における介護サービス
- 2 Hさんが復職した場合の職場での勤務時間
- 3 Hさん夫妻に対して, 退院後に必要となる妻への支援
- 4 Hさんの希望に基づき, 近隣の利用可能な社会資源
- 5 Hさんの今後の療養に関わる院内スタッフの情報共有